

スーパーマーケット景気動向調査

2025年7月調査結果（6月実績）
（2025年7月22日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

7月調査（6月実績）結果概況

現状判断DIは小幅に悪化

6月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DIの現状判断は前月から-1.1の47.7、見通し判断が前月から-1.0の43.8となり、小幅ながらやや悪化傾向が続いている。

経営動向調査では、売上高DIはプラス幅を縮小、利益確保の難しさを背景に収益DIはゼロ水準まで下落した。客単価DIも下落、来客数DIはマイナス圏での推移となった。生鮮品仕入原価DI、食品仕入原価DIは高止まり傾向が続き、販売価格DIも引き続き高水準で推移している。

カテゴリー動向調査では、前月水準から大きな動きはみられなかった。米の価格高騰等により、一般食品DI、代替としても支持が高い惣菜DIが二桁プラス圏を維持している。（カテゴリー別動向に詳細掲載）

景況感調査は現状、見通しともに大きな変化はみられなかったが、ほとんどのDIが小幅に悪化をみせた。（長期傾向はP11参照）

6月は、前年より土曜日が一日少ない曜日めぐりながら、特に中旬以降高温に見舞われ、飲料、涼味など、夏物商材を中心に堅調な販売動向となった。また、随意契約による備蓄米の放出が始まったものの、米の価格高騰を背景に、関連・代替商品を含め、売上伸長が続いている。

昨年、一昨年と夏期に記録的な高温を記録、今年も猛暑の予想が出ており、日中の買物を避けるなどの買物行動が予想される。西日本では早々に梅雨明けし、水不足による日常生活や農作物、店舗運営等への影響も懸念される。猛暑による商品動向だけでなく、豪雨など常態化しつつある気候変動への対応も求められる。

景況感調査

現状判断

景気判断DI 当月：47.7 (-1.1) 前月：48.8	消費者購買意欲DI 当月：43.5 (-2.6) 前月：46.1	周辺地域 競合状況DI 当月：44.8 (0.0) 前月：44.8	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：46.0 (-1.3) 前月：47.3
--	---	--	---

見通し判断

景気判断DI 当月：43.8 (-1.0) 前月：44.8	消費者購買意欲DI 当月：42.4 (-1.4) 前月：43.8	周辺地域 競合状況DI 当月：42.5 (-0.8) 前月：43.3	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：44.4 (-0.8) 前月：45.2
--	---	---	---

経営動向調査 経営状況

売上高DI 当月：8.6 (-3.4) 前月：12.0	客単価DI 当月：14.1 (-4.5) 前月：18.6	来客数DI 当月：-4.9 (-0.7) 前月：-4.2	
収益DI 当月：0.0 (-6.8) 前月：6.8	販売価格DI 当月：22.7 (-1.7) 前月：24.4	生鮮品仕入原価DI 当月：18.0 (+0.7) 前月：17.3	食品仕入原価DI 当月：21.4 (-3.6) 前月：25.0

カテゴリー動向

青果DI 当月：-3.9 (-1.5) 前月：-2.4	水産DI 当月：-2.3 (+2.2) 前月：-4.5	畜産DI 当月：1.9 (-2.5) 前月：4.4	
惣菜DI 当月：13.0 (+2.4) 前月：10.6	日配DI 当月：5.8 (+2.5) 前月：3.3	一般食品DI 当月：18.0 (-1.7) 前月：19.7	非食品DI 当月：-1.2 (+5.4) 前月：-6.6

※DI値は前年同月との比較 / ()内は前月DIからの変化

結果詳細 I. 経営動向調査 (2014年1月～)

1. 売上高DI

前月から下落も、プラス圏を維持

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高 (前月)	3.1	12.3	29.4	44.2	11.0	12.0
売上高 (当月)	4.3	15.7	30.7	40.0	9.3	8.6



2. 収益DI

前月から下落、プラス圏からゼロ水準に

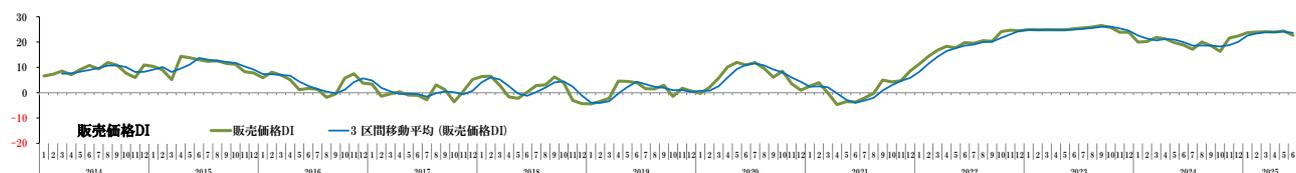
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益 (前月)	5.0	17.6	34.0	32.1	11.3	6.8
収益 (当月)	8.0	22.5	38.4	23.9	7.2	0.0



3. 販売価格DI

前月から小幅に下落も、2桁プラス水準で推移

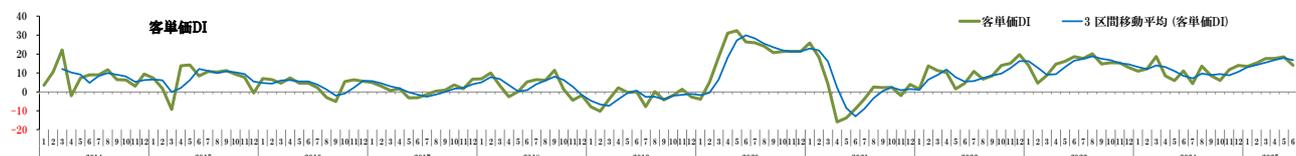
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格 (前月)	0.0	0.6	13.2	74.2	11.9	24.4
販売価格 (当月)	0.0	0.7	18.0	71.2	10.1	22.7



4. 客単価DI

前月から下落も、二桁プラス水準を維持

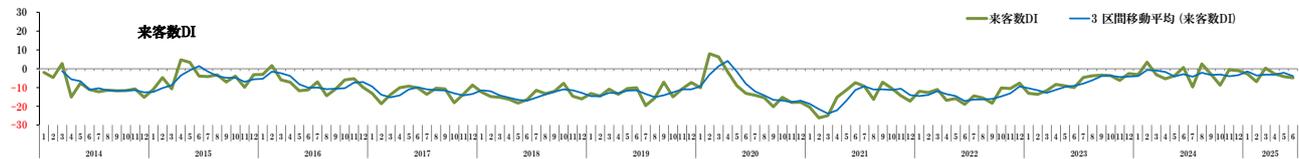
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価 (前月)	0.0	4.9	23.9	63.2	8.0	18.6
客単価 (当月)	0.7	7.3	32.1	54.7	5.1	14.1



5. 来客数 DI

前月から横ばい、マイナス圏で推移

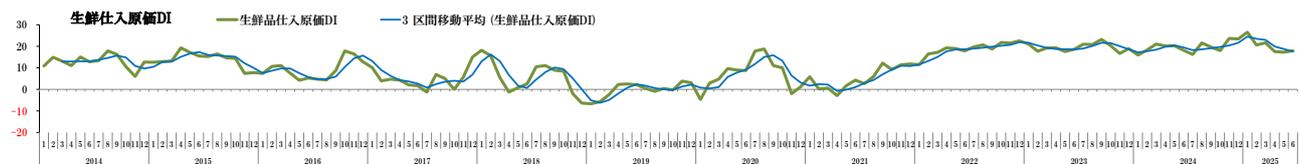
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	6.2	29.0	43.2	18.5	3.1	-4.2
来客数 (当月)	7.2	32.6	37.0	18.8	4.3	-4.9



6. 生鮮仕入原価 DI

前月から横ばい、2桁プラス水準で推移

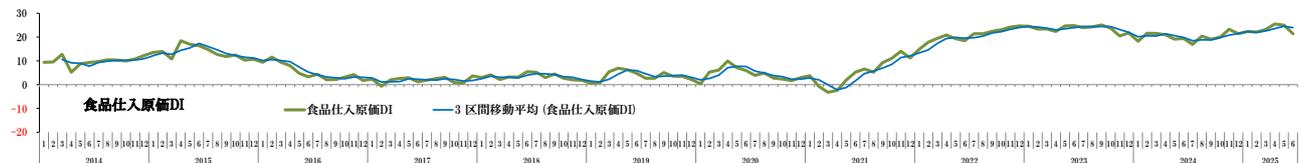
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	0.7	7.9	21.1	62.5	7.9	17.3
生鮮仕入原価 (当月)	0.0	7.4	21.5	63.0	8.1	18.0



7. 食品仕入原価 DI

前月から下落も、50 か月連続プラス域

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	0.0	3.9	13.7	60.8	21.6	25.0
食品仕入原価 (当月)	0.8	3.8	18.0	63.9	13.5	21.4

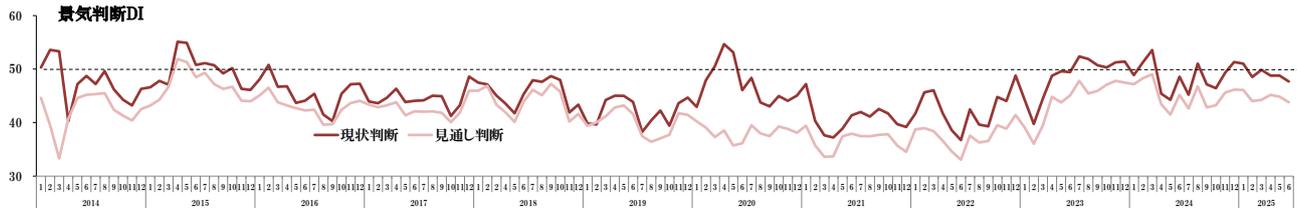


Ⅱ. 景況感調査 (2014年4月～/周辺地域景況判断 2010年4月～)

1. 中核店舗景況判断 DI

現状判断、見通し判断共に小幅悪化

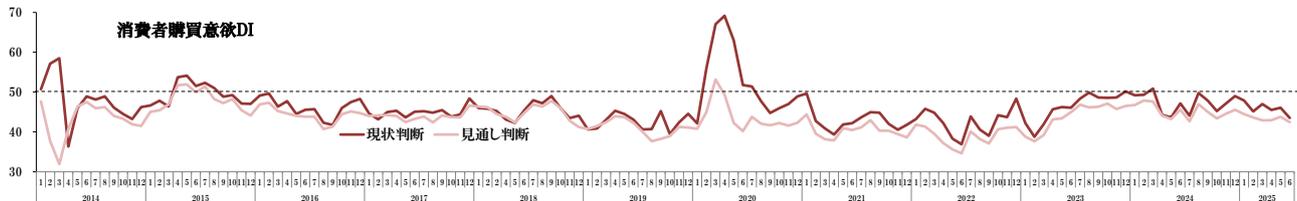
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景況判断 (前月)	1.8	17.6	66.1	12.7	1.8	48.8
【現状】景況判断 (当月)	2.1	17.7	68.8	9.9	1.4	47.7
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景況判断 (前月)	1.8	27.3	61.8	7.9	1.2	44.8
【見通し】景況判断 (当月)	3.5	27.0	61.0	7.8	0.7	43.8



2. 消費者購買意欲 DI

現状判断は悪化、見通し判断も小幅に悪化

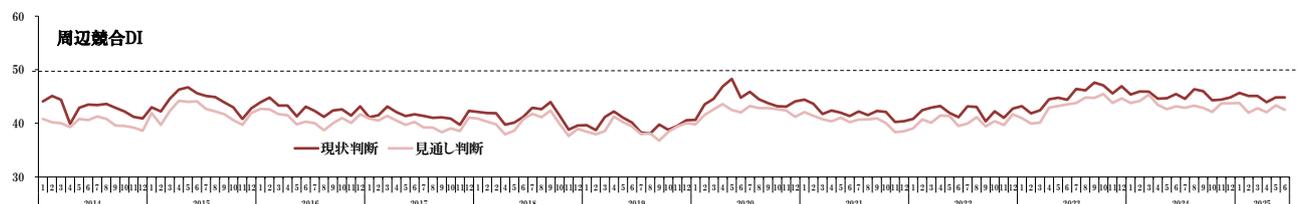
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	0.6	23.6	67.3	7.9	0.6	46.1
【現状】購買意欲 (当月)	0.7	28.9	66.2	4.2	0.0	43.5
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	0.6	29.7	64.2	4.8	0.6	43.8
【見通し】購買意欲 (当月)	0.7	32.4	63.4	3.5	0.0	42.4



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断は横ばい、見通し判断は小幅に悪化

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	2.4	18.8	76.4	1.8	0.6	44.8
【現状】競合状況 (当月)	1.4	20.7	75.0	2.9	0.0	44.8
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	3.6	22.4	71.5	1.8	0.6	43.3
【見通し】競合状況 (当月)	2.9	26.4	68.6	2.1	0.0	42.5



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

現状判断、見通し判断共に小幅に悪化

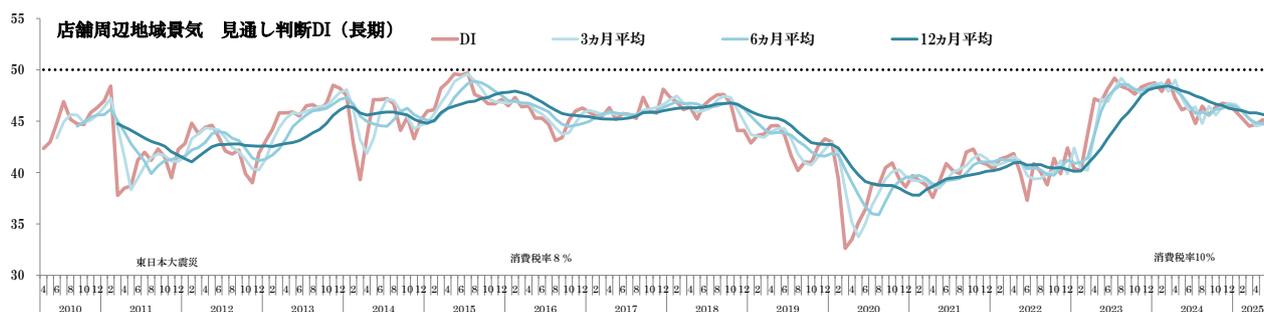
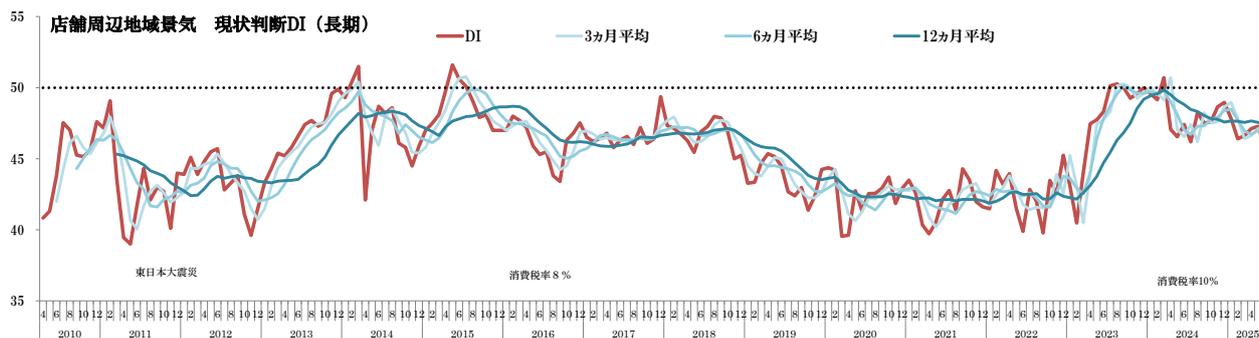
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	0.0	12.7	85.5	1.8	0.0	47.3
【現状】地域景気 (当月)	0.0	16.9	82.4	0.7	0.0	46.0
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	0.0	21.2	77.0	1.8	0.0	45.2
【見通し】地域景気 (当月)	0.0	23.2	76.1	0.7	0.0	44.4



・中核店舗周辺地域景気判断DI 長期傾向 (2010年4月～)

周辺地域景気判断DIは2011年3月の東日本大震災以降低迷を続けたが、12年11月から16ヵ月にわたる改善が続き、14年3月は現状判断DIが51.5を記録。14年4月の消費税率8%引き上げにより大幅に悪化するも徐々に持ち直し、15年5月には現状判断DIは51.6に達し、調査開始以来の最高値を更新した。その後15ヵ月間にわたり悪化傾向は続き16年9月には、現状判断DIは43.4まで低迷した。

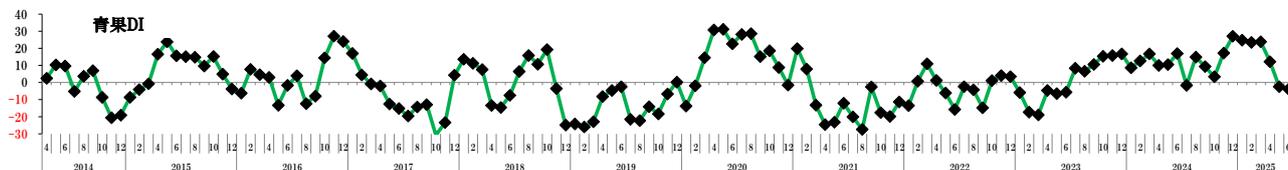
以後方向感の乏しい推移が続いたが、18年の後半から悪化傾向が顕著となり、19年7月には現状判断DIは42.3まで低下した。21年は、感染状況により上下する動きとなった。22年は、感染が再拡大した7月以降に大幅な改善をみせた。23年も改善が続き、7月には判断の分かれ目である50を突破、その後も高水準を維持した。24年前半に悪化したものの、後半は緩やかな改善傾向が続いた。25年はダウントレンドが見られるが、3月まで悪化幅は限定的となっている。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果 DI：-3.9（やや不調）

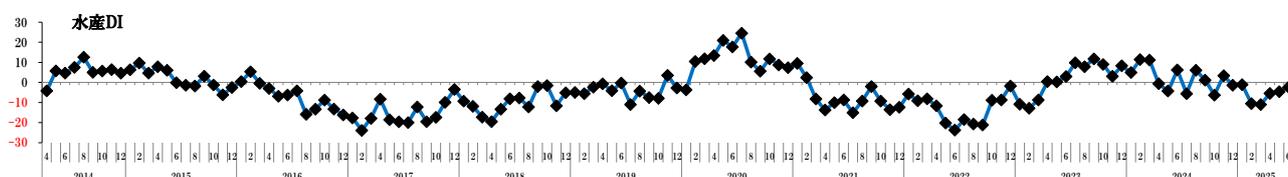
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果 (前月)	5.2	36.4	29.2	21.4	7.8	-2.4
青果 (当月)	5.4	38.8	28.7	20.2	7.0	-3.9



青果相場は全般に落ち着き、単価が低下傾向にあるなか、販売数量が伸び悩み、やや不調となった。高い気温によりサラダ関連は販売点数は好調だが、レタスを中心とした葉物類、トマトの単価下落が影響し売上は伸び悩んだ。じゃがいも、たまねぎなど土物類、根菜類、きのこ類は供給と価格が安定し、好調な店舗が多かった。国産果物では、さくらんぼが不作で不調も、メロン、リンゴ、スイカが好調、カットフルーツも好調。輸入果物ではキウイやバナナが良好な動きをみせた。

2. 水産 DI：-2.3（やや不調）

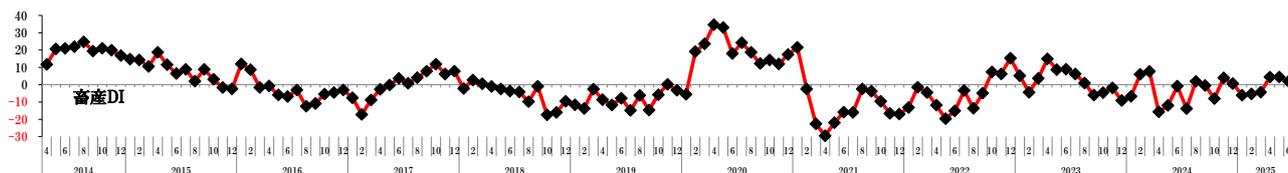
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産 (前月)	7.1	32.5	35.1	22.1	3.2	-4.5
水産 (当月)	6.9	32.3	29.2	26.2	5.4	-2.3



相場高の状況が続いており、生魚は苦戦傾向も、マグロやカツオ、サーモンなどの刺身類が好調で、前月よりやや持ち直した店舗が多い。うなぎは気温上昇により好調で、輸入品を中心に動きがよかった。ブリは相場高で販売が伸び悩み、ほたては大幅な相場高で大きくマイナス。シラスの不漁により、小魚カテゴリー全体が低迷、魚卵・塩干も厳しい状況が続いた。

3. 畜産 DI：1.9（やや好調）

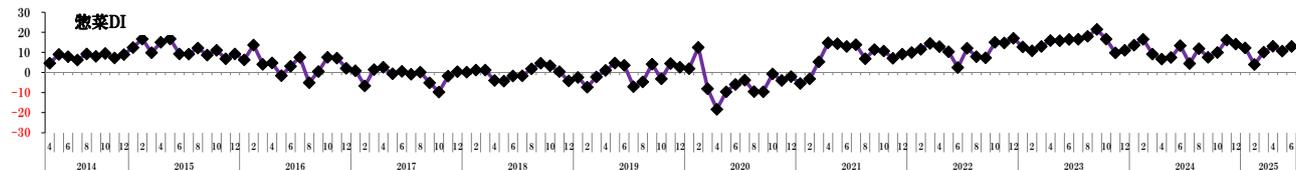
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産 (前月)	3.9	23.0	33.6	30.3	9.2	4.4
畜産 (当月)	6.1	22.9	38.2	22.9	9.9	1.9



全般的に相場高が続き、牛肉の不振と豚肉・鶏肉への需要シフトが継続している。牛肉は国産、輸入共に高値推移が続くなか、中旬以降は気温上昇により焼肉需要には回復傾向もみられた。切り落としや味付肉など低価格・簡便な商材が比較的好調に推移した。国産豚の価格上昇が続く、輸入豚が好調に推移した。鶏肉はブラジルの鳥インフルエンザの影響もあり高騰が続く。特売が打てない、利益確保に悩むコメントが多くみられた。

4. 惣菜DI：13.0（好調）

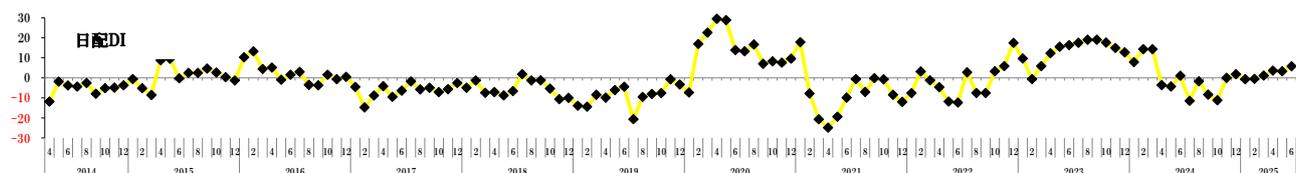
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	2.0	12.4	35.9	40.5	9.2	10.6
惣菜（当月）	0.0	12.4	35.7	39.5	12.4	13.0



コメ価格の高騰により、おにぎりやお弁当などの米飯類が引き続き好調に推移した。気温上昇により、家庭での調理を避ける揚げ物・てんぷら類は堅調に推移しているが、寿司類は持ち帰り面で不調とする店舗が多い。サラダ関連や冷惣菜は青果相場の落ち着きにより伸び悩んだ。中旬以降は、おつまみ惣菜のニーズが高まった。差別化や利益確保に向け商品ラインアップの見直しや独自商品の開発に取り組むとの声も多く見られた。

5. 日配DI：5.8（やや好調）

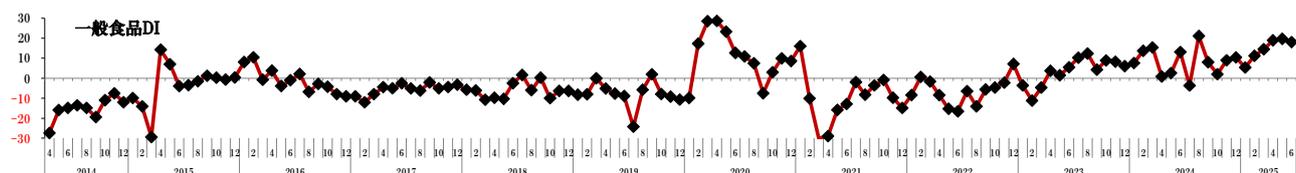
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	3.3	20.3	41.8	29.4	5.2	3.3
日配（当月）	3.1	18.5	36.9	35.4	6.2	5.8



鶏卵は価格高騰が続き好調に推移、売上を牽引した。気温上昇により、アイス・氷菓やチルド飲料が好調となる一方で、牛乳は不調とのコメントが多い。コメ高騰に伴い、パン類やチルド麺類が引き続き好調。和日配では、納豆や豆腐漬物などの値ごろ商品は動きもよい。洋日配ではヨーグルトの好調が続く一方で、デザート類は伸び悩んだ。冷凍食品は引き続き堅調な推移が続いている。

6. 一般食品：18.0（好調）

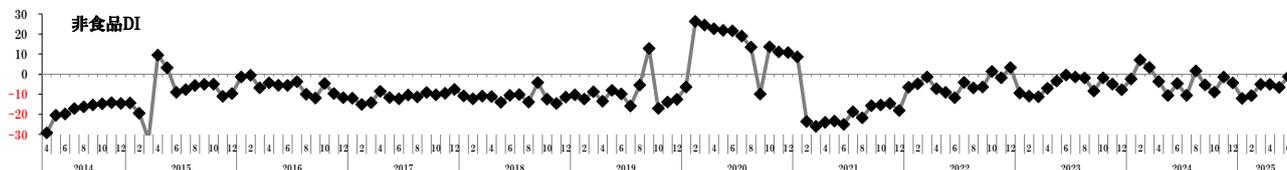
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	1.3	7.1	26.3	42.3	23.1	19.7
一般食品（当月）	1.6	9.3	27.1	39.5	22.5	18.0



米は価格が高止まりする一方、随意契約備蓄米の放出開始、入札備蓄米の出荷も増えて点数が伸び、好調な販売動向が続いた。レンジ米飯、餅、パスタ、インスタント麺類などの関連商品も好調を持続。気温上昇により、飲料や酒類が好調、素麺、つゆなど涼味商材の動きもよい。一方で、全般的な値上がりによる単価上昇で、販売点数の伸び悩みを指摘するコメントが多い。梅酒や梅干しなどが今年好調、とのコメントもみられた。

7. 非食品 DI：-1.2（やや不調）

回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	8.8	32.0	38.8	17.7	2.7	-6.6
非食品（当月）	8.0	21.6	41.6	24.8	4.0	-1.2



気温上昇とともに、日焼け止めや防虫剤など夏物商材が好調。保冷剤などの熱中症対策商品の動きもよい。ティッシュペーパーやトイレトペーパーなど紙製品は好不調が分かれている。衣料洗剤は価格改定の影響で伸び悩んだ店舗が多い。ドラッグストアやホームセンターなどとの競合激化を指摘するコメントが多くみられた。

カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調：～ 20 好調：20 ～ 10 やや好調：10 ～ 0
 やや不調：0 ～ -10 不調：-10 ～ -20 かなり不調：-20～

2025年7月調査（6月実績）キーワード TOP3

1. 米価格高騰
2. 気温の上昇
3. 土曜日が一日少ない（土日10回→土日9回）

（参考）2024年7月調査（6月実績）キーワード TOP3

1. 土日が1日ずつ多い曜日巡り
2. 気温が高く関連商材が好調
3. 米の供給不足報道、特売休止

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

6月実績速報版 165社
 5月実績確報版 141社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp